

アンケートに際して、

環境問題に関心のある人、多少関心がある人にアンケートに答えてもらうという形で、三重県民（北勢地方・南勢地方・伊賀地方）、岐阜県民、愛知県民（名古屋市内・市外の市民）の皆さまの参画を得た。

各県の全域のデータにおけるアンケート内容の確認・分析を行い、更に各県について共通点・相違点・今後の展開などの分析を行った。

問1. . . 三重県は毎年「環境白書」を刊行しています。そのことをご存知でしたか？ . . . 岐阜県は毎年「環境白書」を刊行しています。そのことをご存知でしたか？ . . . 「環境白書」（愛知県で名古屋市以外に在住の方は「愛知県環境白書」名古屋市在住の方は「名古屋市環境白書」）を刊行しています。そのことをご存知でしたか？

「環境白書」とは、国や県、市町において、各・環境の現況、環境の保全および将来の見通しや施策などを公表しているもの。

- ・ 三重県、岐阜県の「知っていた」が47%と、全体の半分に及ばなかった点を見ると、愛知県民の55.6%と半数を超え「環境白書」の存在および認識と関心の高さは、アンケートから読み取れる。
 - ・ 私たちの地域がどうなっているか「知り得ること」「知りたい」「活用したい」を含む情報源でもあり、将来に亘る地域の環境発展にも「繋げる」そんな役割を担うものである「環境白書」を活用したい。
 - ・ 各県行政においては、県民に対して広報の啓発・周知に一層の努力を期待したい。
 - ・ 環境問題に概ね関心のある人においては、自県の環境状況を把握し、企業・家庭・学校など全般で活用し、環境保全に役立ててほしい。
 - ・ 今回のアンケート調査は、アンケート協力者に対して「環境白書」の存在のアピールが出来、同時に認識もできた。
 - ・ 各県の「環境白書」は、ホームページの電子媒体や県の出先機関などで発行されており、冊子を手にとることが出来る。
 - ・ 国の「環境（循環型）白書」においても、毎年全国の9ヶ所で、「環境（循環型）白書」を読む会を開催して国民に開かれたものとなっている。
- 白書の入手方法など、環境省のホームページなどで紹介されている。
「環境・循環型社会白書」一般の書店で購入できる。

問2 . ・2000年度に「三重県新エネルギービジョン」が策定されました。・1999年度に策定された「岐阜県新エネルギービジョン」が2006年に改定されました。・愛知県では「あいち温暖化防止戦略」が2005年に策定されました。また、名古屋市では2010年を目標年とした「市民・事業者の主体別二酸化炭素排出量削減目標量」が策定され「平成20年度環境白書」に掲げられています。（愛知県で名古屋市以外に在住の方は「あいち温暖化防止戦略」について、名古屋市在住の方は「市民・事業者の主体別二酸化炭素排出量削減目標量」について）このことについてご存じでしたか。

国は平成9年に「新エネルギー利用等の促進に関する特別措置法」を制定し、新エネルギーの導入を進めている。各都道府県・市町においても、緊迫するエネルギー事情により、地域特性を鑑みて、新エネルギーの導入・普及啓発・技術開発などの施策を一層積極的に進めていくことを目的として、新エネルギービジョンを策定している。

- ・「知っていた」が、愛知県の27%、岐阜県の25%、三重県の20%となり、三県共に、約2割の人のみが認識しており、新エネルギーに関する県施策が知られてなく「環境白書」より、更に低い数値となった。
- ・「知らなかった」が、岐阜県と三重県ではが同等の42%の多い数値となった。愛知県の名古屋市外の方は、44%となり、市内の方は11%と極端に違いが出た。
- ・各県において、新エネルギー導入目標値を掲げながら県民に協力を仰ぐという点でいささか疑問を呈したい。
- ・「環境白書」と同様に、行政においては、県民向けに「新エネルギービジョン」の広報・啓発の推進が更に努力が必要であり、同時に県民ももっと関心を向けるべき、環境教育などで知らせて行くことも必要であることが、アンケート調査で明確になった。

問3 . (三重県) 「三重県新エネルギービジョン」が策定された時に比べて、2007 年末の導入量および 2010 年末導入目標が次のように記載されています。他方、三重県での 2006 年度の二酸化炭素排出量は 2,756 万トン CO₂ でした。上記の 37 万トンはこの 1.3%に相当します。このことから、三重県における 低炭素社会形成 への努力は満足できるものと言えますか？

(岐阜県) 旧「岐阜県新エネルギービジョン」が策定された 1999 年度(平成 11 年度)には新エネルギーが石油換算で約 5 万キロリットル導入されていました。そして 2004 年度には約 9 万キロリットルへと増えました。そこで、2010 年度目標値を旧ビジョンの約 12 万キロリットルに代えて新ビジョンでは約 15 万キロリットルとしました。他方、岐阜県の 2000 年度における一次エネルギー供給量は 653 万キロリットルでしたので、新ビジョンの目標値はその約 2.3%にあたります。このことから、岐阜県における 低炭素社会形成 あるいは 温暖化防止 への努力は満足できるものと言えますか？

(愛知県) 旧「愛知県新エネルギービジョン」が策定された 1999 年度(平成 11 年度)には新エネルギーが石油換算で約 5 万キロリットル導入されていました。そして 2004 年度には約 9 万キロリットルへと増えました。そこで、2010 年度目標値を旧ビジョンの約 12 万キロリットルに代えて新ビジョンでは約 15 万キロリットルとしました。他方、愛知県の 2000 年度における一次エネルギー供給量は 653 万キロリットルでしたので、新ビジョンの目標値はその約 2.3%にあたります。このことから、愛知県における 低炭素社会形成 あるいは 温暖化防止 への努力は満足できるものと言えますか？

- ・ 「あと数倍の努力をすべき」が愛知県の 46%、岐阜県の 41.3%、三重県の 34.7% で、三県ともに、掲げている “ 低炭素社会形成 ” へ向けて、積極的な意欲を表しているものと見ることができる。
- ・ 一方、二番目に「わからない」という項目に、三重県 43.5%、愛知県 39.7%、岐阜県 38.8%、一番に多い「あと数倍の努力をすべき」と正反対と受け止めことが出来る答えとなった。
- ・ 「わからない」ということは、単に数値で見る結果を実感として「わからない」のであろうか。
- ・ 「あと 10 倍以上の努力が必要である」が、岐阜県と三重県で約 1 割の人が意欲を表しているものの、「満足すべきもの」は、ほんの一握りの人であったことも記しておきたい。
- ・ 三県ともに、ほぼ足並みを揃える形で「あと数倍の努力をすべき」で認識していて、

“低炭素社会形成”へ更なる取組みを行う必要があることを表しているため、県行政においても積極的に具体案（現在：住宅用太陽光発電システム補助金など国や自治体が導入支援）には、身近な方法施策において啓発を進め、県民の意欲を更に喚起してもらいたいものである。

- ・また、各種の新エネルギーについての技術面、設置方法、変換効率、コスト面などまだまだ身近なものとして捉えることができないため、解りやすい広報を望みたい。

問4 . 民主党政権になって、「1990年を基準にして2020年までに温室効果ガス排出量を25%削減する」という中期目標が掲げられました。

各県でもこの中期目標と同程度の目標を掲げたらよいとお考えになりますか？

- ・「そう思う」が、三重県と愛知県が共に約半数以上が示し、岐阜県においては、60%と高い数値を示し、各県において「民主党が掲げた25%削減の目標」に、各県ともに足並みを揃えていくことに賛同したものであった。
- ・一方、次に「現実味のある低い目標値を掲げたら良いと思う」が、三県とも20%代であった。
- ・「わからない」では、三重県が11%と愛知県13%と高く、岐阜県3%が最も低く、ここで、岐阜県に数値で差が生じた。
- ・「目標値が不要」は、岐阜県が5%で、三重県と愛知県は共に1%ともっとも低く、「もっと高い目標を掲げたら良い」は、三県ともに7~8%と低い。
- ・マスメディアなどで広報されているので、関心が高い結果で、三県行政において同様に取組む方向性を打ち出したものである。

問5 . 温暖化対策で、特に期待できることは何だと思われますか？

具体的な取組みについて期待できるもの

三重県：男性

- ベスト 1位……………「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」
2位……………「企業が取り組む温暖化対策」
3位……………「学校あるいは社会での環境教育」

岐阜県：男性

- ベスト 1位……………「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」
2位……………「企業が取り組む温暖化対策」
3位……………「学校あるいは社会での環境教育」

愛知県：男性

- ベスト 1位……………「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」
2位……………「企業が取り組む温暖化対策」
3位……………「学校あるいは社会での環境教育」

- ・ 各県共に、温暖化対策を男性による対策は、全く同じことを掲げている。

三重県：女性

- ベスト 1位……………「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」
2位～3位…「森林の保全」
……………「学校あるいは社会での環境教育」 (同数)

岐阜県：女性

- ベスト 1位……………「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」
2位～3位…「森林の保全」
……………「学校あるいは社会での環境教育」 (同数)

愛知県：女性

- ベスト 1位……………「個人あるいは各家庭での省エネルギー行動」
2位……………「3Rの取組み」
3位……………「森林の保全」
……………「学校あるいは社会での環境教育」
……………「企業が取り組む温暖化対策」 (同数)

- ・ 愛知県において「3Rの取組み」「企業が取り組む温暖化対策」が出てきたものの、各県共に女性も対策について全く同じことを掲げている。

具体的な取組みで、期待出来ないとしているもの

三重県：男性

- ワースト 1 位…………… 「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」
- 2 位～ 3 位…… 「燃料電池を各家庭に設置」
- …… 「原子力発電」 (同数)

岐阜県：男性

- ワースト 1 位…………… 「家電を省エネ製品に買い替え」
- 2 位…………… 「燃料電池を各家庭に設置」
- 3 位…………… 「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」

愛知県：男性

- ワースト 1 位…………… 「燃料電池を各家庭に設置」 (同数)
- …………… 「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」
- 2 位…………… 「家電を省エネ製品に買い替え」
- 3 位…………… 「自動車をハイブリット車」

- ・ 三重県に「原子力」愛知県に「自動車をハイブリット車」をあげているが、ここでもほぼ同じような内容となった。

三重県：女性

- ワースト 1 位～ 2 位…… 「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」
- …………… 「原子力発電」 (同数)
- 3 位…………… 「燃料電池を各家庭に設置」

岐阜県：女性

- ワースト 1 位～ 3 位…… 「太陽光発電を各家庭に設置」
- …… 「自動車をハイブリット車（電気自動車など）に」
- …… 「家電を省エネ製品に買い替え」 (全て同数)

愛知県：女性

- ワースト 1 位…………… 「原子力発電」
- 2 位…………… 「燃料電池を各家庭に設置」
- 3 位…………… 「住宅の改築およびリフォームの省エネルギー対策」
- …………… 「家電の省エネ製品に買い替え」 (同数)

- ・ ワースト 3 の女性の期待出来ないでは、多少であるが順位において違いが出たが、対策項目においての違いはない。
- ・ 三重県と愛知県で「原子力発電」を掲げ、他についてもほぼ同じとなった。

- ・ 岐阜県において、「太陽光発電を各家庭に設置」「自動車をハイブリット車（電気自動車など）に」となった。

全体の内訳で「最も期待できること」「あまり期待できないこと」

- ・ 温暖化対策については、地域・家庭・企業・学校の地域全体において、個人一人ひとりが取組む「省エネルギー行動」や、人間の基本となる「環境教育」が必要で期待できるものと、各三県において共通した取組みであると明確にあらわしたものである。
但し、「各自治体の温暖化対策」については、低いものとなった。
地域・行政との基幹となる自治体は難しいところであることを示したが、是非とも地域団結となった取組みとなってほしい。
(例): 四日市市内のある自治会で、各家庭のエコチェックを実施しながら二酸化炭素の削減に取り組んでいる。課題である個人情報を守ることを原則とし、熱心な志を持ったリーダーがいることで実施している。
- ・ 一方、3分の1を二酸化炭素を出さないクリーンな「原子力発電」を利用しているものの、問題点があると男性・女性が掲げている。
- ・ 具体的な家庭に導入するものについては、期待できないとしている。
新築あるいは車の買い替え時には検討されるものであるが、誰でもすぐに取り掛かれるものでなく、ある意味において当然である答えではないか。

温暖化対策で有効な考えを記していただいた

- ・ アンケートに協力いただいた方々により、具体的な温暖化対策についての
- ・ 有効な取組みや提案が記載されており、大いに資料として活用できる。

三重県民（個人）の視点から

田川県政から引きずっていた「大矢知地区の廃棄物問題」北川県政の「環境先進県」で循環型社会形成に向け取組んだ「RDF 事故」「フェルシルト問題・三重県のリサイクル認定制度の汚点」で数々の事態が露呈する事態となり、野呂県政では、「しあわせ県民プラン」を策定。総合的に様々な課題を総括することに意向され、いささか環境問題に県民も希薄なものとなったと思われる。しかし、北勢・南勢・伊賀地方において、環境に対する意識や取組みに温度差があるものの、県民意識としては今回のアンケート調査において「環境問題」に、ほぼ岐阜県、愛知県との意識や認識に大きくズレることがない結果となった。

岐阜県民の（個人）の視点から

岐阜県民はエネルギーに対する全般的な意識が低い。
特に都市部では、水空気と同様にあって当たり前のもの。
岐阜、西濃圏域には発電所がほとんどないので中部電力の広報そのものも全くない。
この地域は比較的気候が安定しており、停電時間が年間5分以下なので電気に対する不安もない。東濃圏域は瑞浪超深地層研究所があるので原子力の廃棄物が処理されるのではないかと、こちらへの関心が高いが、エネルギー資源という観点ではない。
原子力については発言ができない地域。
中濃、飛騨圏域は地域が持つエネルギー資源—木質バイオマスや小水力発電を産業や雇用にかかわるかもという期待で自治体がアピールしているので、最近になって周知されている。

愛知県民の（個人）の視点から

愛知県は、一般家庭による太陽光発電の設置率が全国で一番、愛知県のなかでも、豊田市の設置率が一番。自治体ごとの政策の優先順位にもよるが、豊田市は環境モデル都市に認定されており力が入っているようだ。
また、愛知県は、「あいち地球温暖化防止戦略～脱温暖化！まったなしの行動計画～」を2005年に策定。その中に、太陽光などの利用普及促進に向けて、100万基設置を目評とするローラーミリオン戦略やエコカー300万台戦略がある。

分析結果から

三県の各問1～5の内容について、分析を行った結果「認識」「確認」「今後の対策」など、ほぼ円グラフにおいても同じ形を示し、「考え方・方向性・展開」に違いがなく足並みが揃う形となった。

終わりに：アンケート調査のご協力の御礼

各県の分析など十分な内容ではありません。（各県の把握に欠けるため）
ここにお詫びとアンケート記入にご協力と感謝を申し上げます。本当にありがとうございました。